

3 アンケート結果から / A めざす児童像

令和4年度 学校評価アンケート結果(三者一覧表)より

No.	別	設問; 体をきたえる (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
1	児	わたしは、体調に合わせ、外で元気に遊んでいる	55.4	83.2	27.8	12.3	16.8	4.5		381
	保	子どもは、パソコンやゲーム等の家庭での約束を守るとともに、体調に応じて外遊びをしている	18.2	66.9	48.6	27.1	33.1	6.1	0.0	362
	教	体調に応じた外遊びを呼びかけるとともに、その時間を確保している	22.7	86.4	63.6	13.6	13.6	0.0	0.0	22

<分析> 保護者の問いに「パソコン〜(下線部)」が加わっているものの、肯定的意見は、R3の児84.0%保61.1%と比べ、児童は大きな変化は見られないが、保護者は微増している。生涯にわたるヘルスプロモーションの観点から、体を動かす機会の生活化をこれからも薦めていきたい。

No.	別	設問; よりよく食べる (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
2	児	わたしは、すききらいせず給食を食べている	52.0	80.6	28.6	15.2	19.4	4.2		381
	保	「早寝早起き朝ご飯」等、子どもは、よりよく食べている	40.3	84.5	44.2	13.3	15.2	1.9	0.3	362
	教	各授業や給食指導において、食に関する意識を高めている	54.5	95.5	40.9	4.5	4.5	0.0	0.0	22

<分析> 児童の給食でのより良い食事は、R3(72.7%)より8%向上。保護者・教職員のデータには、日々、継続的にバランスの良い食事が摂れるように支援する意識が表れている。学校では、給食指導や食育パワーアップ作戦(2・4・6年)を柱に、発達段階に応じた「よりよく食べる」食育指導を推進している。

No.	別	設問; 命を守る (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
3	児	わたしは、道路の右(左)側を一緒に歩いている	55.1	92.1	37.0	6.3	7.9	1.6		381
	保	子どもは、「道路の右(左)側を通る」「飛び出さない」「ヘルメットをかぶる」等、交通ルールを守っている	50.3	93.1	42.8	4.7	6.1	1.4	0.8	362
	教	交通事故の未然防止に、小さなヒヤリを見のがさず指導している	68.2	95.5	27.3	4.5	4.5	0.0	0.0	22

<分析> 児童の肯定的意見は、R3の児95.7%より微減であり、個人での下校時の歩行態度に課題がある。PTAによる日々の交通立哨や安全歩行への声かけ、教室での安全指導が、登下校時の交通事故防止につながっている。授業日の交通事故は0件。R5年度は、「飛び出ししない」への児童の意識と実践力向上に努める。

No.	別	設問; 話を聞く (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
4	児	わたしは、話をする相手の方を見て聞いている	44.1	90.6	46.5	9.2	9.4	0.3		381
	保	家族と話すとき、子どもは、目を見て聞いている	35.4	84.5	49.2	13.8	15.5	1.7	0.0	362
	教	発表する習慣を身につけさせ、話し手や聞き手を育てている	59.1	95.5	36.4	4.5	4.5	0.0	0.0	22

<分析> 「話す・聞く」を学力向上の柱として取り組んできた。児童と教職員の肯定的意見が90%超えは、その成果である。授業だけでなく、運動場や校外での話を聞く態度にもつながっている。保護者のとらえとの差は、学校と家庭という場所と場面の違いによるものでもあらうと考える。

No.	別	設問; 宿題(自主学習)をする (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
5	児	わたしは、宿題や自主学習をきちんとしている	66.4	90.5	24.1	7.9	9.5	1.6		382
	保	子どもは、宿題や自主学習をきちんとしている	39.5	83.1	43.6	15.2	16.3	1.1	0.6	362
	教	学習習慣の定着に適切な宿題(自主学習)を実施し、指導している	72.7	95.5	22.7	0.0	4.5	4.5	0.0	22

<分析> 保護者の肯定的意見83.1%は、R3「お子さまは、家庭学習の習慣がついている」(肯定65.5%)とは設問が異なるものの、児童の肯定的な評価を認める数値である。教職員の「まったくあてはまらない」は、宿題実施の業務を担わない者もいる。今後も学校と家庭の連携を大切に学習習慣の定着に努めたい。

No.	別	設問; 本を読む (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
6	児	わたしは、1日に10分以上本を読んでいる	43.3	63.5	20.2	21.8	36.5	14.7		381
	保	子どもは、家庭で読書をしている	20.2	48.1	27.9	30.4	50.8	20.4	1.1	362
	教	本に触れる機会を多くもたせている	18.2	90.9	72.7	9.1	9.1	0.0	0.0	22

<分析> 児童の肯定的意見はR3の70.6%より減少、保護者は44.2%より増加である。教職員は、朝の時間等での読書推進や図書室の積極的な活用を指導している。読書が学校から生活へと広がるよう、地域ボランティアによる読み聞かせや図書委員会の読書PRを中心に興味を引き出し、継続的に啓発していく。

No.	別	設問; あいさつをする (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
7	児	わたしは、自分からあいさつをしている	48.0	83.7	35.7	13.4	16.3	2.9		381
	保	子どもは、家族にあいさつをしている	46.7	87.3	40.6	11.0	12.7	1.7	0.0	362
	教	児童、来校者、職員に挨拶を率先垂範し、挨拶の大切さを伝えている	77.3	100.0	22.7	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 肯定的意見について、児童はR3の83.2%と増減はない。保護者はR3年度の「気持ちのよいあいさつをしている」(70.2%)から「家族にあいさつ」と設問が代わり肯定的意見が増加した。教職員は、自らあいさつする児童の育成をより良い学校生活づくりへの第一歩とし、組織として積極的に指導している。

No.	別	設問; なかよくする (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
8	児	わたしは、友達となかよくしている	79.8	97.6	17.8	2.4	2.4	0.0		381
	保	子どもは、友達となかよくできている	58.0	93.9	35.9	5.0	5.0	0.0	1.1	362
	教	児童の人間関係を判断し、連絡や報告を密にし良好な関係づくりを支援している	77.3	100.0	22.7	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 児童は、R3「困ったときに相談できる友だちがいる」(肯定88.6%)より9%、保護者は、R3「お子さまは、友だちと仲良く助け合って生活を送っている」(肯定91.7%)より2%の増加。より良い人間関係づくりが日々積み重ねられている。教職員も、組織的な支援が行えている。

No.	別	設問; 整理整頓する (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
9	児	わたしは、トイレのスリッパをそろえている	61.2	90.3	29.1	8.4	9.7	1.3		381
	保	子どもは、玄関で脱いだくつをそろえる等、整理整頓している	11.6	48.9	37.3	38.4	51.1	12.7	0.0	362
	教	トイレのスリッパ揃え、机・ロッカーの整理整頓を指導し、認めている	72.7	100.0	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> R3年度、トイレ使用後のスリッパや教室の机・ロッカーに乱れが生じていたので、本年度特に取り上げた努力項目である。教職員の継続的な指導で児童の意識・態度は向上してきている。学校で身につけた力が他の生活においても活用できるようになるよう、これからも取り組んでいく。

／ B めざす学校像

No.	別	設問；人権教育・特別支援教育 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
10	保 教	学校は、児童一人ひとりを大切に、互いに認め合う学級、学校づくりに取り組んでいる	37.6	85.1	47.5	5.5	5.8	0.3	9.1	362
			81.8	100.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 保護者の肯定的意見は、R3「学校は、差別やいじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる」(肯定80.2%)より5%増加した。教職員は、ポジティブな行動支援を中心として児童の自尊感情の育成に取り組む、育ち合う学級づくりに取り組んだ。保護者の「わからない」(R3は16.4%)が減少した。

No.	別	設問；生徒指導 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
11	保 教	学校は、けんかやいじめが生じることを念頭に、生活指導に取り組んでいる	31.8	77.6	45.9	6.6	7.5	0.8	14.9	362
			77.3	100.0	22.7	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 保護者の肯定的意見は、R3「学校は、差別やいじめのない明るい学校づくりに取り組んでいる」(肯定80.2%)より3%減少。「わからない」(R3は16.4%)の減少は、否定的意見(R3は3.4%)の4.1%の増加となった。他者との衝突を自己解決するコミュニケーション力の育成に取り組むたい。

No.	別	設問；学力向上 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
12	保 教	(11) 授業は、わかりやすい 学校は、わかる授業につとめ、基礎的な学習の定着が図られるように取り組んでいる	64.8	95.3	30.4	4.2	4.7	0.5	7.5	381
			40.6	84.8	44.2	6.4	7.7	1.4	7.5	362
			72.7	100.0	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 肯定的意見は、児童(R3は92.9%)が2%増加、保護者(R3は88.8%)が4%減少である。教職員は、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業に努め、「わかる・できた」が実感できる授業実践に取り組んだ。保護者の「わからない」(R3は7.8%)は変わらない。学力向上を学校の本務として取り組みたい。

No.	別	設問；情報発信 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
13	保 教	学校が保護者に出す文書、学校だより、くすっ子通信、ホームページ、まちこみメール等は、よく分かり適切である	49.2	90.6	41.4	5.8	7.5	1.7	1.9	362
			81.8	100.0	18.2	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 教職員は、コロナ禍で教育活動の公開に制限が生じていることから、それぞれの業務から最善を尽くして発信に取り組んだ。一方、保護者の肯定的意見は、R3の94.8%より4%減少した。どのような情報が、どのような形で求められているか、needsの把握に努めたい。

No.	別	設問；教育公開 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
14	保 教	学校は、学校行事や授業参観、個人懇談などを適切に実施している 学校は、学校行事や授業参観、個人懇談などを適切に実施し、保護者の願いに応えようとしている	51.7	91.2	39.5	6.4	7.5	1.1	1.4	362
			77.3	100.0	22.7	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 保護者の肯定的意見は、No.13(90.6%)を上回る。これは、教育効果が間接的に伝えられることより、直接、実感として味わいたいと願っているのだとらえる。教職員は、コロナ禍において様々な制限のもと、分散型等を取り入れ、様々な手法を尽くして教育内容の公開に努めた。

No.	別	設問；説明責任 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
15	保 教	学校は、保護者からの問い合わせに対して適切に対応している	58.3	93.4	35.1	2.2	3.0	0.8	3.6	362
			95.2	100.0	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	21

<分析> 教職員は、年度当初に本年度の学校教育目標や「学校目標達成にむけて三者一覧表」を明確に示すとともに、問い合わせに対し、事実に基づき丁寧・誠実に対応した。その時、個に応じた見通し(対策)の共有を図ったことが、肯定的意見93.4%になったと考える。

No.	別	設問；開かれた学校 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
16	保 教	学校は、様々な取組や行事において、家庭や地域と連携して児童の教育にあたっている	42.5	83.7	41.2	6.4	7.7	1.4	8.6	362
			68.2	100.0	31.8	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 特に地域との連携において、教職員には、コロナ禍での交流制限もあり可能な限りの実践となった。保護者には、実施内容の変更や延期など、計画的な揺らぎが否定的意見(7.7%)や「わからない」(8.6%)になったと考える。

No.	別	設問；安全・安心、体づくり (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
17	保 教	学校は、児童の安全・安心を守る取組に配慮すると共に、たくましい身体と心を育てている	47.5	89.5	42.0	4.1	4.7	0.6	5.8	362
			72.7	100.0	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 教育の信頼感はずまず児童の安全・安心であるとの認識のもと、全教職員で、組織として取り組んだ。保護者は、R3「学校は、子どもの安全・安心を守る取組に配慮している」(94.8%)、「学校は、子どもの体力をつける取組を行っている」(89.6%)から減少した。

No.	別	設問；楽しい学校 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
18	保 教	(10) 学校(学級)へ行くのが楽しい 子どもは、楽しく学校生活を送っている 児童は、楽しく学校生活を送っている	55.6	87.4	31.8	8.9	12.6	3.7	7.5	381
			60.8	91.2	30.4	6.4	7.5	1.1	1.4	362
			50.0	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22

<分析> 教職員は、児童が楽しい学校生活が送れるよう全力を尽くしている。課題には、即時応じた。肯定的意見について、児童はR3の84.2%から3%増加、保護者はR3の86.7%から4%の増加である。その要因は次の児童設問(12)~(15)に表れているように、児童と教職員が信頼関係を高めていることである。

No.	別	設問；「楽しい学校」の要因 (%)	よくあてはまる	肯定的	ややあてはまる	あまりあてはまらない	否定的	まったくあてはまらない	わからない	回答数
	児	(12) 授業では、自分で考えたり、活動したりしている	47.0	90.0	43.0	9.2	10.0	0.8	7.5	381
	児	(13) 道徳や人権のことについて話を聞いたり、考えたりしている	56.2	90.3	34.1	8.4	9.7	1.3	7.5	381
	児	(14) 学校の先生は、がんばったことを褒めてくれる	63.8	91.9	28.1	6.6	8.1	1.6	7.5	381
	児	(15) 学校の先生は、話や意見をよく聞いてくれる	74.0	95.8	21.8	3.4	4.2	0.8	7.5	381

<分析> 肯定的意見のR3との比較。(12)は82.4%から7.6%、(13)は83.2%から7.1%、(15)は93.4%から2.4%の増加、(14)は93.1%から1.2%減少とはいえ90%超えである。この児童と教職員の信頼関係の高さが「楽しい学校」を築いている。自尊感情の育成をめざした本年度の教育実践の効果でもある。